

医学群

School of Medicine
and Health Sciences

人材養成目的

良き医療者、すなわち優れた医療技術のみならず、しっかりしたコミュニケーション能力に裏打ちされた全人的対応のできるグローバルスタンダードに則った医療人、さらには医学、看護学、医療科学の分野における世界レベルの研究者を養成します。

医学類

College of Medicine

学士(医学)

■ Doctor of Medicine

人材養成目的

将来優れた臨床医、医学研究者、医学教育者あるいは保健・医療・福祉の専門家として、それぞれの分野でグローバルな活躍をもって地球規模課題の解決に挑み、社会に奉仕し貢献するために、基本的な臨床能力と医学研究能力を備え、高い問題解決能力と良好なコミュニケーション力をもって、患者の立場に配慮した医療および医学研究を生涯にわたり推進する人間性豊かな医師を養成します。

求める人材

自然科学、語学等の十分な基礎学力と豊かな創造性、探求心を有し、高い倫理観、協調性、コミュニケーション能力を持って、生涯にわたり人類の健康と福祉に貢献する強い意志を持つ人材を求めています。

医学類

看護学類

医療科学類

卒業後の進路

医師にとって生涯教育は必須のことであり、様々なキャリアパスがあります。卒業直後の2年間臨床研修とその後に続く専門研修に進み、ほとんどの卒業生が医師として活躍しています。途中大学院に進み学位を取得する者や、そのまま基礎研究分野へ進む者の他、一部は保健所や厚生労働省などの行政に進む卒業生もいます。茨城県内への就業は約半数になっています。卒業生フォローアップ調査では、専門分野は臨床医学90%、基礎医学4%、社会医学5%、卒業後10年以上の卒業生の学位取得率は65%、認定医・専門医取得率は90%でした。

臨床研修(初期研修)

筑波大学附属病院…19%
一般研修病院…67%
他大学付属病院…13%

大学院…2%

専門研修(後期研修)

筑波大学附属病院
一般病院
他大学付属病院



筑波大学大学院
他大学大学院

病院

診療所

大学教員・研究者(大学院生含む)

行政(厚生労働省、県等)

保健所・福祉関係

その他

※四捨五入により合計が100%にならない場合があります。

教育の質の保証と改善の方策

教育の質の向上のために、医学教育企画評価室を設置し、医学類教育推進委員会と連携しながら、教育の調整役としての役割を担っています。カリキュラム策定への提案、各プログラムの実施支援、授業評価からフィードバックの一連のプロセスを通して改善を図ることに加え、社会のニーズに対応するための新たなプログラムの企画を行っています。

教授法の向上のため、教員ファカルティ・ディベロップメント(FD)を実施しています。全教員必修の初任者研修、更新研修に加えて、担当教員を対象にPBLテュートリアルシナリオ作成およびブラッシュアップなどのテーマで、例年のべ200名ほどの教員が参加しています。

学生からのプログラム評価及び教員からの評価を全てのコース終了時および学年末などに実施し、カリキュラム作成にむけたフィードバックを行い、着実な改善につなげています。

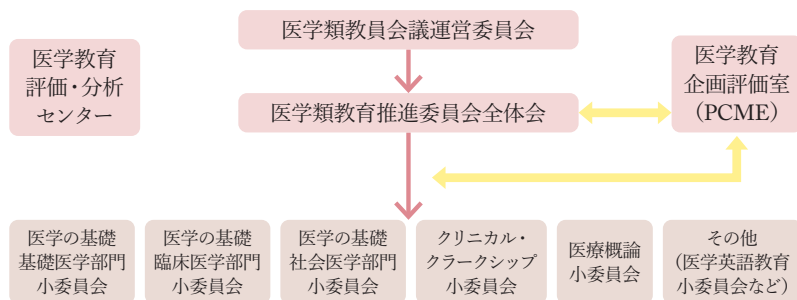
独立した評価部門として、医学教育評価・分析センターを設置し、教育成果の分析を行っています。

全国医学部共通で医療系大学間共用試験実施評価機構が実施する共用試験の他に、医学類各部門の責任教員で組織される医学類運営委員会において単位認定、進級・卒業判定を行い、社会に向けて卒業生の水準を保証しています。

国際基準に基づく医学教育分野別認証

筑波大学医学群医学類は、2023年11月7日～10日に自己点検評価報告書を基に医学教育評価機構(JACME)による実地審査を受け、適合の認定を受けました(認定期間2024年10月1日～2031年9月30日)。(医学類HPに実地審査における自己点検評価書を掲載しています)

教育の質の保証と教育力向上への取組



*医学類教員会議運営委員会…カリキュラム、成績に関する承認を行う

*医学類教育推進委員会…カリキュラムの問題点、改善を検討する

*医学教育企画評価室(PCME…Planning and coordination for medical education)…各学年のカリキュラム開発への助言、実施支援、授業評価、カリキュラム評価(学生・教員・卒業生・外部組織からの評価)、評価結果のフィードバックと改善への提案、FDの企画実施

*医学教育評価・分析センター…医学類直轄の機関として、教育成果の情報収集・分析を行う

学士(医学)

Doctor of Medicine

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力(汎用コンピテンス)を修得し、かつ医学類卒業時コンピテンシーを修得したと認められる者に、学士(医学)の学位を授与します。

プロフェッショナリズム

豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識と倫理観を有し、人の命と健康を守る医師になる者としての自覚と責任感をもって医療を実践できる。常に向上心を持ち、省察を行い、生涯にわたり自己研鑽を続けることができる。

科学的思考

事象について、好奇心・探究心を持って科学的な視点でとらえたとともに、未知の問題を解決するための科学的な方法を理解できる。

コミュニケーション

多職種を含むチームで連携し患者中心の医療を提供するために、患者やその家族、およびチームメンバーとの間で適切にコミュニケーションをとることができる。

診療の実践

医療の基盤となっている基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を有し、それを応用して、患者の問題を全人的に理解し、それを解決するための適切な診療を実践できる。

医療の社会性

人間個体はもちろん、地域・社会あるいは人類全体のグローバルな問題を広くとらえ、保健・医療・福祉の関連法規、制度、システム、資源を理解した上で、社会基盤に基づく地域・社会の健康を支える活動を実践できる。

未来開拓力

自身の未来を切り拓き、広く社会に貢献するために、グローバルな視野を持ち、困難な状況においてもたくましくしなやかに、積極果敢に挑戦する姿勢を示す。また、「教育の筑波」としての伝統を継承し、情熱をもって教育を実践し、周囲と協働してリーダーシップを発揮できる。

教育課程編成・実施の方針

学士(医学)に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

全国の医学部に先駆けて、開学当初より基礎医学・臨床医学・社会医学を統合した6年間一貫教育を取り入れており、自己学習能力・問題解決能力の涵養を重要視していること、体験型プログラムが充実していることが特徴です。

順次性に関する方針

1～3年次…医学の基礎コース

8～9人の少人数グループに分かれ、チューター教員のファシリテートを受けつつ、事例を用いた討論や自習により自ら問題解決を行う学習方式「PBLテュートリアル」が中心です。基礎・臨床・社会医学の分野が統合された28コースから構成されます。

4～6年次…診療参加型臨床実習(クリニカル・クラークシップ)

従来の見学を中心とする臨床実習とは異なり、医療チームの一員のStudent doctorとして参加型の臨床実習を行います。前半の1年間は大学病院を中心とした内科、外科などの必修診療科での実習を行い、後半では選択実習の他に、茨城県内の地域の医療機関における実習も行います。実習の前には、医療系大学間共用試験実施評価機構が行う、CBT(コンピューターを用いた知識の評価)とOSCE(基本的診療技能・態度の実技に関する客観的評価)

に合格しなければなりません。

■ 1～6年次…医療概論

医療倫理、チーム医療、地域医療(プライマリ・ケア)、ヘルスプロモーション、医師患者関係など、上記の臓器系統別のプログラムでは修得が難しい領域を体系的に学びます。

■ 6年次…アドヴァンスト・エレクトィブズ

各自の希望により、大学内外・国内外の医療機関、研究室、行政などで実習を行います。

■ 1～6年次…研究室演習・実習

自分が興味を持った分野の研究室で教員のアドバイスを受けながら、最先端の医学研究を行います。5年次後半には、将来の医学研究につながる「新医学主専攻」を選択することができます。また、6年次には新

医学主専攻の学生のうち、卒業後直ちに大学院博士課程へ進学する者を対象とした「国際的医学研究人養成コース」も用意されています。

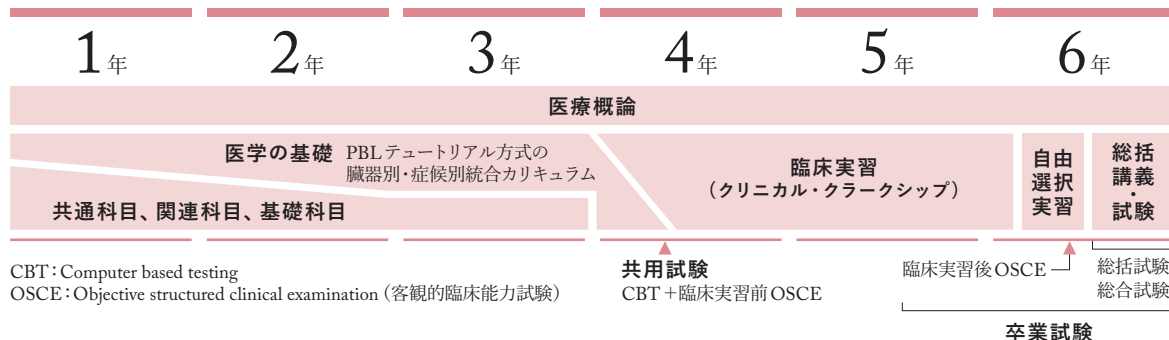
実施に関する方針

自ら学ぶ態度と習慣をつけ、未知の問題を解決する能力を身につけさせるために、低学年では、少人数制によるチュートリアル方式を全面的に採用しています。この学習を支援するために、リソースパーソン(教員)を配置、e-learning環境など学習サポート体制を整備し、教授法の向上を目指した教員研修会を定期的実施しています。

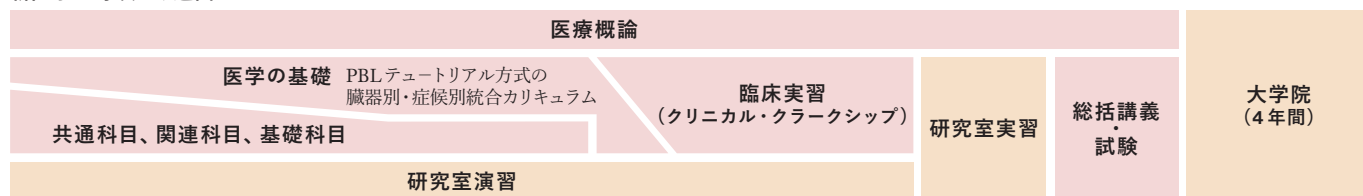
臨床実習は、大学附属病院各診療科を中心に行う他に、大学教員が茨城県内の地域医療の現場で直接指導を行う地域医療教育センター・ステーション制度も活用

カリキュラム

(医学主専攻)



新医学主専攻より選出



*国際的医学研究人養成コース支援奨学金

・6年次(通算1年間) 50,000円/月

・人間総合科学研究群(医学の課程)在学中(通算4年間) 80,000円/月

学士（医学）

Doctor of Medicine

して行います。

学修成果の評価に関する方針

各科目では、到達目標に達しているかをシラバスに記載されている方法を用いて公正に成績評価を行います。4年次には全国共用試験であるCBT、臨床実習前OSCEを受験し、合格した者がStudent Doctorの認証を受け病院実習に進むことができます。6年次には臨床実習後のOSCEが行われ、卒業に必要な要件となっています。進級・卒業判定は各学年の客観的判定基準に基づき、医学類教育会議運営委員会が厳格に行います。

その他特筆すべき特色

英語教育改革や国際バカロレア特別入試を実施するなど、広く世界から国際感覚豊かな学生を募り、世界で活躍できる医師を養成しています。